

R4学科試験に合格する戦略的学習法

1. R3学科試験は極めて高い難易度

R3学科試験は、学科 I 計画の難易度が高く、その学科 I の合格基準点(足切点)には、-1点の補正がかかりました。更に、学科試験全体の合格率は、R2に比較して約5%も下がり、15.2%と極めて厳しい合格率でした。

表1 学科試験の合格基準点

	I 計画 (20点)	II 設備 (20点)	III 法規 (30点)	IV 構造 (30点)	V 施工 (25点)	総得点 (125点)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
平成21年	11	11	16	16	13	97	42,569	8,323	19.6
平成22年	11	11	16	16	13	88	38,476	5,814	15.1
平成23年	11	11	16	16	13	87	32,843	5,171	15.7
平成24年	11	11	16	16	13	94	29,484	5,361	18.2
平成25年	11	11	16	16	13	92	26,801	5,103	19.0
平成26年	11	11	16	16	13	90	25,395	4,653	18.3
平成27年	11	10	16	16	13	92	25,804	4,806	18.6
平成28年	11	11	16	16	13	90	26,096	4,213	16.1
平成29年	11	11	16	16	13	87	26,923	4,946	18.4
平成30年	11	11	16	16	13	91	25,878	4,742	18.3
令和元年	11	11	16	16	13	97	25,132	5,729	22.8
令和2年	11	10	16	16	13	88	30,409	6,295	20.7
令和3年	10	11	16	16	13	87	31,696	4,832	15.2

難易度が高く-1点補正

極めて厳しい合格率

2. R4学科試験で足切点にかからない戦略的学習法

R4試験に合格するには、難易度が高くても足切点にかからない戦略的学習法を実施する必要がある。

R3の学科 I 計画は、作品が6問も出題されました。作品の問題は、学習範囲が広すぎること、一般的建築知識を応用しても解けないことから、一生懸命学習しても正解しずらく、足切点にかかる可能性が高い。この対策としては、過去問学習で点数が取りやすい赤枠(R3は10問あり)を、確実に正解する戦略的な学習が必要である。

表1 I 計画の項目別一覧表(平成14年~令和3年)

NO	年度 項目分類	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	出題数 (個)	出題確率 (%)	
		(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)	(問目)			(問目)
1	設計手法								1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	3.9	
2	日本建築史作品	24	24	25	24	25	24		3	2	3		3	2	2	2	2	2	2	2	3	18	5.3	
3	西洋建築史作品	25	25	17	25		25	24		3	2	3	2		3	3	3	3	3	3	2	18	5.3	
4	周辺環境	15			17				4	5,16	5		5	4	5,6	5,6	5		5,6	5,6	16	16	4.7	
5	各部寸法		14,15	14,15	14,15	14,15	14,15	13,14	5,6,7	6,7	4,6,7	4,6,7	4,6,7	5,6,7,8	4,7,8	4,7,8	6,7	7,8,14	4,7	5,8	4,5,6,8	49	14.5	
6	バリアフリー	17	16	16	16	13	16	15	8	8	8	8	8	9	9	9	8,9	12	9	4,9	9,16	23	6.8	
7	都市計画作品								2	10	9	5	9	3	10	10	4,10	10			11	12	3.6	
8	都市計画論								9,10	9	10	9,10	10,11	10,11	11	11	11	11	11	10	10	11	18	5.3
9	住宅・集合住宅施設	9	10		10	10	10	8	11	12	11	12	11	13	13	13	13	13	13	13	12	19	5.6	
10	住宅・集合住宅作品	10	9		9,24	10	8		12	11	2,11,12		12	12	12,13	12,13	13	13	12		13	21	6.2	
11	事務所・商業施設	11	11		11	11	11		13	13	13	13	14	14	14	14	14	5,9		7		19	5.6	
12	公共施設	13,5	13	12	12		12	11,12	14	14,15	14	14,16		15	15	15	15	4,6,15,16	8,14,17	17	10	27	8.0	
13	病院・高齢者施設		12		13				15	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16	12	3.6	
14	その他作品	12			12	13			17		16		14		17		17	17	15	14,15	14,15,17	15	4.5	
15	計画各論総合	14	17	13		16,17	17	16	16	4,17	17	17	16,17	17		17					7	17	5.0	
16	施工監理								18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	13	3.9	
17	建築積算								19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	13	3.9	
18	マネジメント							25	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	20	14	4.2	
	合計問題数	11	11	11	11	11	11	11	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	337	100	

赤枠10問を
確実に正解

作品が6問
出題された

注1)項目分類は同類問題の名称を示す。H(平成)R(令和)は出題年度を示す。表内数値(1~20)は問題番号を示す。

3. 確実に1点ずつを取るための学習法

研究会では、過去問20年を学習すれば100点を超えて合格できるとし「過去問20年一覧表」の学習を推奨していた(現在も推奨中)。ただし、R3の学科試験を踏まえると、単純に全ての問題の過去問20年を学習するのではなく、確実に正解できる項目を集中的に学習する戦略的学習法も取り入れるべきである。

また、多くの受講生から学習する時間が取れないので、通勤電車内で聞きながら学習できる講座や、何時でも何処でも学習できる「パワーポイント音声読上」や「学科YouTube講座」を開設してもらいたいとの意見を受けて、2021年からこの2講座を追加した。ただし、学科YouTube講座は、その資料内容が膨大であることから、アニメーション等は一切採用しないで、ひたすら愚直にパワーポイントでの音声解説とした。それぞれの特徴は下記の通りだが、研究会は、この3種類の学習をすることで、確実に1点ずつを取ることができると判断している。

- (1) 過去問20年分の問題全てを目で見ながら出題傾向等を学習できる過去問20年一覧表
- (2) 通勤電車内で過去問20年の箇条書きの正解文を見て聞けるパワーポイント音声読上
- (3) 約10分で1項目の重要な内容や出題傾向等がわかる学科YouTube講座

1. 設計手法(1)【I計画:過去問20年の類似項目別による出題傾向一覧表】

平成21年度 問題1	平成22年度 問題1	平成23年度 問題1	平成24年度 問題1	平成25年度 問題1
建築物の平面図等に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。	建築物の平面図等に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。	建築物の平面図等に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。	建築物の平面図等に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。	建築物の平面図等に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。
1 建築物の設計においては、建築士が建築主と協同して設計を行う。建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。	1 建築物の設計においては、建築士が建築主と協同して設計を行う。建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。	1 建築物は、常に品質を保持し、建築に関する法令及び規制に準拠して、建築物の質の向上に努めること、公正かつ誠実に業務を行うことが重要である。	1 一般建築士、二級建築士及び木造建築士は、国土交通大臣の免許を受け、一定以上の建築物の設計、工事監理等の業務を行うことで、責任を負う。業務を行うに当たっては、公正な業務遂行が求められる。	1 建築士は、建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。
2 建築物の設計においては、建築士が建築主と協同して設計を行う。建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。	2 建築物の設計においては、建築士が建築主と協同して設計を行う。建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。	2 建築物は、常に品質を保持し、建築に関する法令及び規制に準拠して、建築物の質の向上に努めること、公正かつ誠実に業務を行うことが重要である。	2 一般建築士、二級建築士及び木造建築士は、国土交通大臣の免許を受け、一定以上の建築物の設計、工事監理等の業務を行うことで、責任を負う。業務を行うに当たっては、公正な業務遂行が求められる。	2 建築士は、建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。
3 公共建築物の設計においては、建築士が建築主と協同して設計を行う。建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。	3 公共建築物の設計においては、建築士が建築主と協同して設計を行う。建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。	3 建築物は、常に品質を保持し、建築に関する法令及び規制に準拠して、建築物の質の向上に努めること、公正かつ誠実に業務を行うことが重要である。	3 一般建築士、二級建築士及び木造建築士は、国土交通大臣の免許を受け、一定以上の建築物の設計、工事監理等の業務を行うことで、責任を負う。業務を行うに当たっては、公正な業務遂行が求められる。	3 建築士は、建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。
4 建築士は、常に品質を保持し、建築に関する法令及び規制に準拠して、建築物の質の向上に努めること、公正かつ誠実に業務を行うことが重要である。	4 建築士は、常に品質を保持し、建築に関する法令及び規制に準拠して、建築物の質の向上に努めること、公正かつ誠実に業務を行うことが重要である。	4 建築物は、常に品質を保持し、建築に関する法令及び規制に準拠して、建築物の質の向上に努めること、公正かつ誠実に業務を行うことが重要である。	4 一般建築士、二級建築士及び木造建築士は、国土交通大臣の免許を受け、一定以上の建築物の設計、工事監理等の業務を行うことで、責任を負う。業務を行うに当たっては、公正な業務遂行が求められる。	4 建築士は、建築主の意向を尊重し、建築士の専門的知識や経験を駆使して設計を行うことが重要である。
解答(正解肢4)	解答(正解肢1)	解答(正解肢3)	解答(正解肢1)	解答(正解肢3)
1 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>
2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>
3 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>

過去問20年一覧表

ポイント一覧表の音声読上【学科 I 計画(1.設計手法) 1/4】

建築設計者は、建築が近隣や社会に及ぼす影響を自ら評価し、良質な社会資本の充実と公共の利益のために努力することが重要である。

建築設計にかかわる者は、依頼者の要請に応えるとともに、当該建築物の利用者及び社会に対する公益性に配慮して、公正な立場で業務を遂行することが重要である。

建築士は、常に品位を保持し、業務に関する法令及び実務に精通して、建築物の質の向上に寄与するように、公正かつ誠実にその業務を行う。

建築士は、設計を行う場合、法令に適合させて、設計の委託者に対し、設計の内容に関して適切な説明を行うように努める。

免許は、一級建築士、二級建築士及び木造建築士が、国土交通大臣の免許を受け、一定以上の建築物の設計、工事監理等の業務を行うことで、責任を負う。業務を行うに当たっては、公正な業務遂行が求められる。

建築士は、他人の求めに応じ報酬を得て、建築物に関する調査及び鑑定のみを業として行う場合、建築士事務所を開設して業務を行う。

調査又は鑑定は建築士法の業務であり、不誠実な行為は懲戒処分の対象である。

建築士は、法令違反行為について、指示、相談等の行為をしてはならない。

一級建築士、二級建築士及び木造建築士は、設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上に努める。

過去問H7~R1(全文正解肢、短文化、長文&図有の極端に難しい問題は別表、類似問題までできる限り統一化)

ポイント一覧表の音声読上【学科I計画(1.設計手法) 1/4】

ポイント一覧表の音声読上【学科I計画(1.設計手法) 2/4】

ポイント一覧表の音声読上【学科I計画(1.設計手法) 3/4】

ポイント一覧表の音声読上【学科I計画(1.設計手法) 4/4】

III法規 法令集の最強マーカーの書き方

③黄色マーカーはポイント文

②橙色マーカーは見出し

①赤色マーカーは重要見出し

④緑色マーカーは強調したい法文

⑤青色マーカーは否定法文

学科YouTube講座

過去問(H7~R3)の出題法文のみにマーカー

1級学科R3組込解説【5科目の問題分析】2021年10月27日

5科目(学科I)の過去問20年の項目別一覧表

学科I計画 1 設計手法を確実に解く学習法

学科I計画 1 設計手法のYouTube解説

学科I計画 1 設計手法のパワーポイント音声読上

学科I計画の過去問20年の項目別一覧表

5科目(学科II)の過去問20年の項目別一覧表

5科目(学科III)の過去問20年の項目別一覧表

